

# 定時社員総会議事録

令和元年度 公益社団法人 茨城県作業療法士会  
定時社員総会

令和元年6月2日11時15分より、茨城県立医療大学・大講義室（茨城県稲敷郡阿見町大字阿見4669番地2）において定時社員総会を開催した。

議決権のある当法人の社員総数	999名
総社員の議決権の数	999個
出席社員数（委任状による者(648)を含む）	724名
この議決権の総数	724個

## 出席理事

大場（代表理事：議長）、小森、角田、大内、若山、笥、柘植、宇都木、服部、藤木、齋藤、関、山倉、武士、田口、細田、荒井（議事録作成者）

## 出席監事

中山、西

## 書紀

小田部直子（神立病院） 小坪仁美（フロイデ工房しろさと）

以上のとおり社員の出席があったので、定款の規定により、代表理事：大場耕一は、議長席につき、本定時総会は適法に成立したので開会する旨を宣し、直ちに下記議案を付議した。

## 第1号議案 平成30年度事業報告の件 →賛成多数で第1号議案は採択

### 1. 主目標

会長：大場 耕一

下記の各目標に沿って法人事業を展開した。

- 1) 茨城型地域包括ケアシステム構築への支援  
当該システムの完成年度となる2025年に向けて、自助・互助の枠組みを確立させ、豊かな県民生活の後方支援を果たせるよう継続した事業展開を行ってきた。医療圏や市町村単位での連携構築・強化も、会員各位のご尽力により進展させることができた。
- 2) 公益社団法人としての組織力強化  
県士会単独としての組織力強化「組織率の底上げ」も、これまで同様継続して行った。本ミッションに関しては、全国組織（OT協会）においても同様の課題として位置付けたうえで、課題解決や成果促進への情報共有と実践を継続して行った。
- 3) 研修の推進、県士会学術集会およびブロック合同学会の継続・発展  
学術団体としての最大の使命となる学術集会、各研修会の実践を果たすことができた。しかしながら、学術集会へのエントリー数や参加者数の漸減傾向は否めず、会員各位の求めるテーマであるか、参加への啓発は充分であったかなど、中期的な課題として検討していく。
- 4) 行政連携型事業の強化  
昨年度の新規事業として設定した各事業（認知症施策、がんに関するリハビリテーション、障害と自動車運転、精神保健領域施策、発達障害児・者に対応した施策）に関しては、キックオフも含めて進めることができた。反面、行政との強固な連携という課題に関しては、未だ調整等の余地は残っており、継続審議していく。
- 5) 広報・啓発に向けた基盤整備  
ホームページのトラブルや運用方法の修正を余儀なくされた1年となった。今年度上半期には、中・長期の運用に耐えうるシステムの抜本的改善を果たしていく。その他の情報共有手段に関して

も、その利便性等に関する再検討の必要性があると考えている。

6) 災害支援への組織力強化

OT 協会や JRAT との連携強化の元、平時における活動の確認を果たすことができた。さらに有事の対応に向けた研修会等への検討が継続事業となる。

7) 女性会員の事業参画促進に向けた取り組み

女性会員が多い団体であるため、女性会員が積極的に活動出来るよう関わりをしていきたいと考えている。学術集会および研修会等に託児室併設を実施できた。今後は利用率の向上を主眼に進めていく。

## 2. 事務局

事務局長：小森 裕一

会員及び組織に関する報告。正会員は、平成 31 年 3 月 31 日現在 993 名（内休会者 4 名）にて、平成 30 年度の入会 92 名、退会 54 名となっている。

総務部では、平成 30 年度定時社員総会、平成 30 年度監査会、理事会 3 回・常任理事会 4 回を実施している。理事会について内容については、公益目的事業の変更届について、今後の会員シールの発行などについて話し合いを実施してきた。常任理事会では、茨城ゆめ大会や会員シールについて等の話し合いを行ってきた。庶務部では、議案書に書かれている種々の会員管理について行ってきた。財務部では、収入支出の管理に加え、会計者と連携し財務管理を実施した。厚生部では、正会員及び関係者・団体に対し香典・弔電・供花の発送依頼・情報管理を実施した。3 士会合同懇親会の幹事が当法人の担当であったため、企画・運営を実施した。

## 3. 教育・学術局

教育・学術局長：笥 智裕

例年通り、企画された研修会については滞りなく実施する事ができた。生涯研修に関しては、総会時研修を「生涯教育制度の概要」「茨城県作業療法士会の今後の展望」について平成 30 年 6 月 3 日に実施した。

基礎教育部では、第 1 回現職者共通研修を平成 30 年 8 月 26 日に開催。第 2 回現職者共通研修を平成 30 年 12 月 16 日開催。専門教育部では、第 1 回現職者選択研修（老年期領域）を平成 30 年 9 月 16 日に開催。第 2 回現職者選択研修（発達障害領域）を平成 31 年 3 月 24 日に開催。生活行為向上マネジメント(MTDLP)研修（基礎研修）(1 回目)を平成 30 年 6 月 17 日に開催。生活行為向上マネジメント(MTDLP)研修（事例検討）(1 回目)平成 30 年 9 月 23 日に開催。(2 回目)を平成 31 年 3 月 3 日に開催。

実践教育部では、「ポジショニングにおける技術向上と他職種連携」をテーマに中堅者研修会を開催した。

学会部において、第 11 回茨城県作業療法学会を平成 31 年 2 月 17 日に茨城県立医療大学で開催した。基調講演では相澤病院の村山幸照先生に、ランチョンセミナーでは、らいおんハート相談事業所東海の理学療法士石塚保士先生にご講演いただいた。教育講演では、訪問看護ステーション KAZOC の渡邊 乾先生にご講演いただいた。一般演題は、81 演題。参加者は 259 名と盛況のうちに終了した。

その他、共催・後援研修会に関しては、合計 71 回、延べ 1,168 名の参加人数があった。

## 4. 地域貢献局

地域貢献局長：寺門 貴（細田 忠博 代理報告）

作業療法フェスタ運営部では、北茨城介護予防フェスタ、新たに OT フェスタ in 茨城ロボッツを実施した。また、茨城県「介護の日」イベントを実施した。

市民公開講座運営部では、第 14 回市民公開講座テーマが、『おもちゃで遊ぼう！』ということで、鷺田先生にご講演いただいた。参加者は、42 名であった。

制度対策部では、医療保険および介護保険関連の情報発信、保険情報関連の相談窓口の運営、福祉用具相談支援システムの運営（OT 協会委託事業）を実施致した。福祉用具相談支援システムに関しては 2 件の相談があった。

イキイキ地域づくり事業部では、平成 30 年度地域ケア会議人材育成研修を実施した。平成 30 年度「聞きたい知りたい」出前講座として、一般住民に対して「認知症」と「認知症 AR/VR 体験」をテーマに実施した。

コミュニティ・ディレクター統括部では、各医療圏の活動を統括して行ってきた。各医療圏で様々な取り組みを実施した。

## 5. 広報局

広報局長：角田 和之

啓発部では、OT 啓発用 DVD の制作、OT 啓発用パンフレットの編集・発行・管理を行った。県士会作成のリーフレット、パンフレットを準備し、各関連事業にて配布を行った。また、小中学生向けの認知症サポーター養成講座開催時にリーフレット、パンフレットの配布を行った。作業療法学会での啓発活動、小中校生向け認知症サポーター養成講座の企画・開催した。

広報編集部では、ニュースペーパー、メールマガジンの編集・発行・管理を行った。

宣伝部では、ホームページ管理・運営（部・局間と協働事業）を行った。日本作業療法士協会と協力し、模擬的に本会会員の被災状況確認をホームページ・メールマガジンにて実施、協会との情報共有とともに現状把握に努めた。

## 6. 法人対策委員会

委員長：荒井 裕久

平成 30 年 7 月 10 日法人対策委員会を開催し、事務所据え置き書類の書類の確認を実施した。公益法人として事業の行った事わかる資料を事務所へ保管しておく必要があるため、各担当者へ据え置き書類の提出を依頼し事務所への保管資料の整理を実施した。

## 7. 災害対策委員会

委員長：寺門 貴（大場 耕一 代理報告）

有事の際に平時からどのような対策が行えるのか模索した 1 年であった。

茨城 JRAT 事務局会議に 5 回参加し、他職種での意見交換会にも出席した。

## 8. 障害と自動車運転支援委員会

委員長：緑川 学（小森 裕一 代理報告）

昨今、テレビでも報道されているように高齢者の交通事故が増えおり、社会問題となってきた。当士会では、認知症の方への自動車運転ということで、様々な活動を行ってきた。

茨城県自動車教習所協会、各教習所職員との連携、茨城県リハビリ講習会実行委員会との勉強会を実施した。茨城県リハビリ講習会実行委員との連携、兼会議として、平成 30 年 12 月 1 日に開催された第 2 回茨城県リハビリ講習会の後援、並びに勉強会と会議に参加した。また、日本作業療法士協会の「運転と作業療法特設委員会」企画の「先進的な施設の見学」に県内の作業療法士 7～8 名が参加した。

## 9. 認知症支援推進委員会

委員長：山倉 敏之

認知症支援推進委員会では、日本作業療法士協会認知症作業療法推進委員会へ参加した。認知症作業療法アップデート研修会を開催した。

認知症サポーター養成活動への支援の促進として、認知症サポーター養成講座に講師を派遣した。認知症サポーターフォローアップ研修に講師を派遣し、認知症 AR/VR 体験を実施した。

認知症の人と家族の会茨城県支部への支援として、本人交流会に講師として 3 回ほど派遣を実施した。

認知力アッププログラム教材作モデル事業（茨城県委託事業）として、平成 29 年度認知力アッププログラム教材作モデル事業（茨城県委託事業）にて、認知症予防や認知力アップの重要性を啓発する目的で認知症 VR/AR プログラムを制作し、平成 30 年度においても、関係各所からの依頼に対し、講師を派遣し、機材を使用して認知症 AR/VR 体験会を 13 箇所で開催した。

## 10. 精神障害領域対策委員会

委員長：角田 和之

精神科領域の OT は県士会への未加入者が多い状態であるので引き続き加入促進に向けた活動を実施してきた。

災害等に備えた精神障害領域の作業療法士・施設間の連絡体制の推進については、研修会や懇親会において、会員には連絡用メールアドレスへの登録が済んでいるかどうかの確認を実施した。未登録施設には登録を行うよう啓発を行った。

研修会の開催は、精神障害領域における作業療法士の学術研究の向上発達を目的に、精神障害者への評価・アプローチ等に関する研修や報告会の企画・運営を行なった。個別作業療法に関する講演、茨城県の「こころの生活支援手帳」の紹介と使用事例を報告、併せて参加者同士の意見交換を行った。

## 11. がんの作業療法対策委員会

委員長：田口 智規

平成 30 年度企画提案型がん対策推進事業として、平成 30 年 11 月 18 日に日立シビックセンターにて市民公開講座を開催。テーマは『がんを患った人の生活を支える作業療法』（講師：牛久愛和総合病院リハビリテーションセンター 夏加孝明先生）で、県民に向けてがんの作業療法について啓蒙啓発を行った。参加者数は、29 名。

## 1.2. 選挙管理委員会

委員長：植田 千春

平成31年6月2日に現理事の役員任期が満了となるにあたり、選挙管理規程において役員の改選を実施するため、平成31年3月11日に改選の公示を実施した。

質問：

1. 組織率の底上げの算出ができていないか。 ⇒回答：大場 耕一  
日本作業療法士会と同様、茨城県作業療法士会においても県内にいる作業療法士数（勤務の有無問わず）はできていない。組織率の算出をしっかりとしようという流れは、日本作業療法士会としてもある。会員数を増やしていくことが、組織率を上げる事にもつながっていくのでしっかりと会員を増やしていけるよう取り組んでいきたいと考えている。
2. 会員数に対してのメール会員の登録数を把握できているか。 ⇒回答：大場 耕一  
現在約1,000名の会員に対して200名（個人）のメール会員登録あり。施設ごとの案内はメルマガにて送っているが、約240施設に対して登録は半数程度に留まっている。毎年、連絡網の作成用紙を送ってはいるが、返信の無い施設が多いため、引き続き登録の促進を図っていきたい。
3. 県士会ホームページへのアクセス数は把握できているか。 ⇒回答：大場 耕一  
現在のシステムでは、チェックできるシステムにはなっていない。ホームページに問い合わせのボックスを設置しているが、そちらへの問合せは年々増えてはきている。2～3ヶ月前からホームページの不具合が起きている。本日を起点にして1週間ほどかけて修正をかけていく。いずれにしても情報発信の強化に努めていく。

採決：第1号議案について賛成多数であり、この議案は承認された。

## 第2号議案 平成30年度収支決算書・監事意見書報告の件

→賛成多数で第2号議案は採択

- ・平成29年度と比較として、入会金に関して前年度より424,000円増えている。入会者が92名、退会者が54名となっている。事業収益について研修収入が150,000円の減収となっている。
- ・その他事業収入が728,956円の減収となっているが、平成29年度は認知力アッププログラムに関する県からからの委託費70万円を計上していたが、こちらが無くなったための減収となっている。
- ・計上収益計は、488,859円の収入源となっている。
- ・経常費用は、役員報酬について平成30年度から復活させたため計上した。給料手当も事務員の給料を若干上げたため微増している。
- ・管理費に関して通信費に関して前年比259,312円増となっている。郵送代の単価が上がっている事、会員数が増えたことによる郵送先の増加に伴って増えている。
- ・保険料についても、研修会時の託児所の開設に伴う保険などを手厚くできるようにしたため増額されている。
- ・正味財産末期残高として、前年度から676,850円のマイナスとなり、5,135,344円となっている。財産目録として、固定資産として特定資産に対して公益目的事業用資産として1,000,000円を定期預金に入れている。また、その他の固定資産として有形固定資産にVRコンテンツ機材(95,040円)、無形固定資産としてVRプログラム(121,308円)を計上している。
- ・公益目的基準数値も問題無く実施する事ができた。

監事意見書：中山 勉

令和元年5月12日に監事監査を行ったので、報告する。

- I 私達は、平成30年4月1日から平成31年3月31日までの会計年度の本会の財務諸表、すなわち、財産目録、収支計算書、貸借対照表を監査し、それを基礎として、本会の財務及び理事の業務執行の状況を監査いたしました。
- II 財務諸表の監査に当たっては、私たちが必要と認めた監査手続きを実施いたしました。
- III 監査の結果、私達は、上記財務諸表が適正に作成されており、本会の平成31年3月31日現在の財政状態及び同日を以って終了する会計年度の収支状況を適正に表示しているものと認めます。また、本会の財務と理事の業務執行の状況は、共に良好且つ適性であると認めます。

上記の通り、監事の意見を報告いたします。

以上

質問：

1. 役員報酬について会長をはじめ理事の方に報酬として支払われているものか。⇒回答：大場 耕一  
財源がなかなか支弁できずに3年程ゼロベースで運営してきたが、監査上よろしくないという理由もあり前年度から報酬を発生させている。
2. 減価償却費が毎年15万円前後あるが、何に対して算出されているのか。⇒回答：中山 勉  
その他固定資産であるVRコンテンツ機材・VRプログラムに対して発生している。VRコンテンツは後1年、VRプログラムについては後3年減価償却がある。

採択：第2号議案について賛成多数であり、この議案は承認された。

### 第3号議案 令和元年度事業計画（案）の件

→賛成多数で第3号議案は採択

#### 1. 主要目標

会長：大場 耕一

前年に引き続き7点の主要目標を挙げている。その中でも「公益法人としての組織力強化」「女性会員の事業参画に向けた取り組み」について強化を図っていききたい。

「公益法人としての組織力強化」に関しては、今年度はこれまでの事業に加えて、民間やスポーツ団体等とのコラボレーションを果たしながら、様々な可能性を見出していきたいと考えている。特に今年度は茨城国体・障害者スポーツ大会もあり、特に作業療法士が障害者スポーツに対して、しっかりと関わっていきけるような体制作りを行っていききたいと考えている。

「女性会員の事業参画促進に向けた取り組み」に関して、今年度も引き続き、すべての研修会等での託児室の併設を目指し、女性会員のスキルアップの場を提供していく。さらに今年度は、他団体と協業した中で、女性会員の懇話会組織の編成にも尽力していく。

#### 2. 事務局

事務局長：小森 裕一

総務部に関しては、例年通り常任理事会4回、理事会3回、監事会を予定している。本年度は、県からの監査も予定されているので、滞りなく行えるよう書類の準備等を実施していく。庶務部に関しては、例年通り会員管理を徹底する事と郵送物関連を行っていききたい。財務部に関しては、会計社と連携し収入支出の管理を行っていく。厚生部に関しては、福利厚生・慶弔関連について引き続き対応していく。

#### 3. 教育・学術局

教育・学術局長：笥 智裕

例年通り、本日の総会前の総会時研修を実施した。また本年度も現職者共通研修、現職者選択研修、生活行為向上マネジメント研修、中堅者研修、第12回茨城県作業療法学会を実施予定。

今年度から、臨床実習指導者研修会が開催する。1施設2名の選出となっており、施設単位での申し込みとなっているため、ご理解いただいた上で参加募集を行っていく。

#### 4. 地域貢献局

地域貢献局長：寺門 貴（代理報告：細田 忠博）

作業療法フェスタ運営部では、スポーツ団体との連携も図り、作業療法士の発信をしていく。市民公開講座運営部では「精神障がい者への支援」「発達障がい者への支援」をテーマに講座の開催を予定している。決まり次第ホームページ等で案内をしていく。制度対策部ではIT機器レンタル事業研修会の開催を行っていく。イキイキ地域づくり事業部では引き続き出前講座や地域支援事業などへの対応を行っていく。コミュニティ・ディレクター統括部においては、前年度同様、各医療圏にて様々な事業を展開出来ればと考えている。

## 5. 広報局

広報局長：角田 和之

前年に引き続き、県士会員および県内外の一般の方や他職種に対しても広く作業療法を広報および啓発するための情報発信をしていく。

## 6. 各委員会の取り組みは、前年度同様実施していく。

質問：

1. コミュニティ・ディレクターとして活動している中で、医療圏での研修会の企画に苦慮することがあった。ユーザー支援事業についても公益法人として重要な役割を占めているが、担当者が変わると医療圏活動の意義なども伝わりにくくなっていると感じている。医療圏の研修会やユーザー支援に求める事や在り方についてご意見を伺いたい。

⇒回答：大場 耕一

県士会としても医療圏の活動が一番重要であると考えている。今後、県士会の運営側の担当者を増やして窓口を広くする事を検討している。研修会やユーザー支援事業は医療圏の特色に合わせて実施していただければと考えているが、現在リハ職も365日体制となっている所も多くなってきており、開催日時も含めてご検討いただきたい。

医療圏の担当者は完全ボランティアという形になってしまっているため、負担軽減のためにも運営に関してご意見があれば、理事会でも検討していくので率直な意見を挙げていただきたいと考えている。

採決：第3号議案について賛成多数であり、この議案は承認された。

## 第4号議案 令和元年度収支予算(案)の件

→賛成多数で第4号議案は採択

収支（正味財産増減）予算書  
令和元年 4月 1日 から 令和2年 3月 31日まで

(単位:円)

科目	公益目的 事業会計	収益事業等会計				法人会計	内部 取引 消 去	当年度 予算	前年度 予算	増減
		広告事 業	共益事 業	共通	小計					
I 一般正味財産増減の部										
1. 経常増減の部										
(1) 経常収益										
受取会費・入会金	4,527,283	0	420,590	0	420,590	4,522,127	0	9,470,000	8,960,000	510,000
研修収入	3,141,000	0	0	0	0	0	0	3,141,000	2,195,600	945,400
広告料収入	0	120,000	0	0	120,000	0	0	120,000	120,000	0
その他事業収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常収益計	7,668,283	120,000	420,590	0	540,590	4,522,127	0	12,731,000	11,275,600	1,455,400
(2) 経常費用										
事業費										
会場費	383,000	0	0	0	0	0	0	383,000	234,000	149,000
謝金	1,378,018	0	0	0	0	0	0	1,378,018	1,212,500	165,518
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旅費交通費	1,367,280	0	0	0	0	0	0	1,367,280	1,072,500	294,780
会議費	377,480	0	0	0	0	0	0	377,480	370,200	7,280
交際費	12,000	0	0	0	0	0	0	12,000	12,000	0
保険料	127,000	0	0	0	0	0	0	127,000	49,000	78,000
通信費	316,700	0	0	0	0	0	0	316,700	230,100	86,600
消耗品費	312,000	0	0	0	0	0	0	312,000	261,000	51,000
印刷製本費	1,350,614	0	0	0	0	0	0	1,350,614	1,218,230	132,384
広告宣伝費	158,000	0	0	0	0	0	0	158,000	158,000	0
支払手数料	1,648	0	0	0	0	0	0	1,648	1,648	0
減価償却費	86,538	0	0	0	0	0	0	86,538	0	86,538

事務用品費	100,906	6,115	12,231	0	18,346	0	0	119,252	53,058	66,194
賃借料	392,127	23,765	47,531	0	71,296	0	0	463,423	463,423	0
ホームページ管理費	223,121	13,522	27,045	0	40,567	0	0	263,688	234,000	29,688
委託費	293,558	17,791	35,583	0	53,374	0	0	346,932	356,019	△ 9,087
役員報酬	163,600	13,900	23,200	0	37,100	0	0	200,700	200,700	0
給料手当	618,000	0	0	0	0	0	0	618,000	588,240	29,760
法定福利費	6,693	0	0	0	0	0	0	6,693	6,693	0
運営手数料	0	0	275,000	0	275,000	0	0	275,000	217,176	57,824
雑費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
管理費										
役員報酬	0	0	0	0	0	181,300	0	181,300	181,300	0
給料手当	0	0	0	0	0	412,000	0	412,000	392,160	19,840
法定福利費	0	0	0	0	0	4,462	0	4,462	4,462	0
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
旅費交通費	0	0	0	0	0	544,848	0	544,848	626,274	△ 81,426
通信費	0	0	0	0	0	334,003	0	334,003	632,101	△ 298,098
事務用品費	0	0	0	0	0	33,635	0	33,635	14,965	18,670
印刷製本費	0	0	0	0	0	512,661	0	512,661	355,518	157,143
新聞図書費	0	0	0	0	0	0	0	0	20,000	△ 20,000
保険料	0	0	0	0	0	85,800	0	85,800	34,830	50,970
委託費	0	0	0	0	0	97,853	0	97,853	100,416	△ 2,563
賃借料	0	0	0	0	0	130,709	0	130,709	130,709	0
支払手数料	0	0	0	0	0	1,772,910	0	1,772,910	1,745,947	26,963
交際費	0	0	0	0	0	560,400	0	560,400	216,100	344,300
寄附金	0	0	0	0	0	129,000	0	129,000	139,000	△ 10,000
諸会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会議費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
租税公課	0	0	0	0	0	1,200	0	1,200	1,800	△ 600
ホームページ管理費	0	0	0	0	0	74,374	0	74,374	66,000	8,374
経常費用計	7,668,283	75,093	420,590	0	495,683	4,875,155	0	13,039,121	11,600,069	1,439,052
当期経常増減額	0	44,907	0	0	44,907	△ 353,028	0	△ 308,121	△ 324,469	16,348
2. 経常外増減の部										
(1) 経常外収益										
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用										
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
税引前当期一般正味財産増減額	0	44,907	0	0	44,907	△ 353,028	0	△ 308,121	△ 324,469	16,348
法人税等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	0	44,907	0	0	44,907	△ 353,028	0	△ 308,121	△ 324,469	16,348
一般正味財産期首残高	0	368,026	0	0	368,026	3,833,013	0	4,201,039	4,525,508	△ 324,469
一般正味財産期末残高	0	412,933	0	0	412,933	3,479,985	0	3,892,918	4,201,039	△ 308,121
II 指定正味財産増減の部										
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	0	412,933	0	0	412,933	3,479,985	0	3,892,918	4,201,039	△ 308,121

採決：質問なし。第4号議案について賛成多数でありこの議案は承認された。

## 第5号議案 役員（理事・監事）選任の件：植田千春選挙管理委員長

→賛成多数にて第5号議案は採択

平成31年3月吉日付けで公示した茨城県作業療法士会役員改選について理事の立候補者を下記の通り受理しましたので以下に告示致します。

### 記

#### 1. 立候補者氏名

##### 理 事

大場 耕一（総和中央病院）	小山 貴士（いちほら病院）
吉田 亮二（高萩それいゆ病院）	若山 修一（茨城県立医療大学）
土橋 梓（筑波記念病院）	小森 裕一（水戸赤十字病院）
荒井 裕久（水戸赤十字病院）	唯根 弘（茨城県立医療大学）
藤木 真理子（牛久愛和総合病院）	大内 康雄（村立東海病院）
笥 智裕（牛久愛和総合病院）	山倉 敏之（筑波記念病院）
田口 智規（老健 ひまわり水戸）	武士 直也（水戸協同病院）
柘植 哲洋（つくばセントラル病院）	磯 智和（つくばセントラル病院）
宇都木 淳弘（水府病院）	田中 亮（土浦協同病院）
細田 忠博（神立病院）	小田部 直子（神立病院）
小坪 仁美（フロイデ工房しるさと）	関 智之（総和中央病院）
寺門 貴（志村大宮病院）	服部 考彰（茨城福祉医療センター）
新堀 拓（通所リハビリステーションにこここ）	

以上 25 名

#### 2. 選挙方法

候補者が定数を満たしているため、定款施行細則第35条により無投票当選とする。

#### 3. 外部監事の承認について

中山勉様が都合により任期途中での辞任となり、理事会で平成会計社小泉秀樹様を推薦した。総会で報告の上、賛成多数にて承認された。

採決：質問なし。第5号議案について賛成多数であり、この議案は拍手にて承認された。

## 第6号議案 その他〔報告・案内〕

### 1) 会員シール関連について（小森事務局長）

- ・入会方法は、当会ホームページよりダウンロードをして各自郵送等で対応して欲しい。年会費に関しては、次年度以降 I-NET による口座引落としとなるため、引き落とし口座等を必要書類に記入をして事務局へ郵送していただく。
- ・会員シールについて：会員シールを廃止し、会員証を毎年配布する方向で実施していく。

質問：

1. 会員証を使用する機会が今のところは無いと思うが、発行する必要があるのか？

⇒回答：大場 耕一

会員証の意義は会員であるという証明ができる。会員であることの意味確認をして頂くツールであり、年会費を収めているかどうかの証明となる。

### 2) いきいき茨城ゆめ大会について（柘植理事）

- ・いきいきゆめ大会にて、コンディショニングルームの運営を予定している。コンディショニングルームでは、マッサージやストレッチ、アイシング、テーピングなどを実施する。従事スタッフは募集開始しているが、10月11日の公式練習日のスタッフを若干名募集している。



3) IT 機器レンタル事業「作業療法士が行う IT 活用支援研修会（茨城県）」について

(富永制度対策部長：細田理事代理報告)

- ・総会案内と一緒に資料を同封しているため、確認をしていただく。家族への指導方法など細かい部分も学べるため是非参加していただきたい。

質問：

1. 1回参加すればレンタル継続が可能なのかどうか？また、施設で研修会へ参加しているスタッフがいたらレンタル継続が可能なのかを含めて確認して頂きたい。

⇒回答：細田 忠博

担当者に確認をしてホームページの Q&A に掲載予定。

4) 第 12 回茨城県作業療法学会の案内について（宇都木学会部長, 学会実行委員会）

- ・令和 2 年 2 月 9 日（日） ※事業計画立案時は 2 月 16 日開催の予定であったが、2 月 9 日開催で決定となった。
- ・学会長：浅野 祐一（介護老人保健施設そよかぜ）, 実行委員長：小野 恵美（筑波大学附属病院）  
学会テーマ：「やってみたい, やってほしい, やってみよう ～くらしを紡ぐ生活行為～」  
8 月 1 日から演題募集開始。

議長は以上をもって本日の議事を終了した旨を述べた。議長は解任され、本定時社員総会は 13 時 22 分閉会した。